国際経済史 II

科目ナンバリング　ECH-202
選択必修　　2単位

野澤　丈二

1. 授業の概要（ねらい）

この授業では、主に15世紀から20世紀までを対象として、国と国・地域と地域などの相互の繋がりや影響に主眼を置いて、経済史をより国際的な視点から学びます。

経済の三要素といわれるヒト・モノ・カネに加えて、そのほかさまざまな要因（制度・情報・技術・宗教・教育・地理・環境など）も考慮に入れながら、今日のグローバルな世界の成り立ちについて学びます。

2. 授業の到達目標

① 経済史とはなにかを説明できる。
② 経済的に不均衡な世界の成り立ちを、その歴史的背景から説明できる。
③ 過去や歴史を知ることで、現在生きている状況を相対化し、複眼的な思考を養う。

3. 成績評価の方法および基準

平常点　（30%）：① 毎回の授業内課題、② コメント・カード、③ 出席状況
※ 特別な事情がなく3回欠席があった場合には、自動的に評価の対象外とします。遅刻は2回で欠席扱いとなります。
期末試験（70%）：授業で扱った内容を範囲として、60分の筆記試験を実施します。
※ 授業内で行う小課題は期末試験の準備も兼ねています。毎回の出席を心がけてください。

4. 教科書・参考文献

教科書
ロバート・C・アレン　『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』（NTT出版 2012年）

参考文献
各回のテーマに応じて、授業内で適宜指示します。

5. 準備学修の内容

授業で指定する予習箇所に必ず目を通すこと。

現在、「グローバル」な視点から書かれた歴史書が、一般向けにも多く刊行されています。書店に立ち寄る機会があれば、ぜひ関連書棚を眺めてみてください。もちろんネット上で閲覧できる書評なども活用してください。

また、普段から、自分を取り囲む生活環境に目を向けて、その歴史的な背景について少しだけ考えてみてください。

6. その他履修上の注意事項

この授業での内容を補完する意味でも、また国際経済史をより深く理解するためにも、「アジア経済史」「西洋経済史」「国際経済論」などを併せて履修することが望ましい。

授業の内容や順番は変更になる場合があります。

7. 授業内容

【第1回】　イントロダクション
【第2回】　歴史学とはなにか、経済史とはなにか?
【第3回】　前期の振り返り
【第4回】　西欧の海外拡張
【第5回】　大いなる分岐
【第6回】　産業革命
【第7回】　ドイツとアメリカ
【第8回】　インドの挫折
【第9回】　南北アメリカの比較
【第10回】　アフリカ
【第11回】　日本のキャッチアップ
【第12回】　ソ連とアジア
【第13回】　21世紀の展望　【オンライン（LMSによるオンデマンド形式）】
【第14回】　ドキュメンタリーの鑑賞
【第15回】　まとめと試験